

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
平成23年度第4回理事会 議事録

【開催日時】平成23年10月20日 正午から午後1時30分まで

【開催場所】前橋商工会議所「アネモネ」 群馬県前橋市日吉町1-8-1

【出席した理事】菊地臣一、加藤真介、加藤義治、川上紀明、川上 守、佐藤栄修、田口敏彦、千葉一裕、出沢 明、徳橋泰明、中村博亮、富士武史、星野雄一、山下敏彦、米 和徳

【出席した監事】佐藤哲朗、里見和彦

【オブザーバー】永田見生(第41回日本脊椎脊髄病学会学術集会会長)、野原裕(第40回日本脊椎脊髄病学会学術集会会長)

【欠席した理事】高橋和久

【議事の経過の要領及びその結果】

菊地臣一理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

決議事項

1 第1号議案 入退会承認の件

佐藤栄修理事は、資料1に基づき、平成23年7月～9月の入退会審査結果が、一般会員6名、専門会員4名、特定会員1名の入会及び一般会員4名、専門会員3名の退会である旨の報告を行い、議場に諮った。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

2 第2号議案 入退会規程並びに入会申込書書式改訂案承認の件

佐藤栄修理事は、資料2に基づき、入会規程案の改訂並びに入会申込書改訂案について詳細な説明を行い、議場に諮った。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

3 第3号議案 第24回学会奨励賞(大正富山 Award)選考委員選任並びに任期承認の件

永田見生会長は、議題箋に記載の選考委員候補者を選任する件並びにその任期に関する意見を述べ、議場に諮った。各理事は、慎重に審議し、全員一致で、委員候補者の選任を承認可決し、当該任期を当理事会終了の時から第41回学術集会終了時までとすること並びに第42回以降の任期は学術集会終了の翌日から次の学術集会終了日までとすることを承認した。

審議・報告事項

4 第40回学術集会に関する終了報告の件

野原裕前会長は、資料3に基づき、第40回は震災によりWeb開催形式を選択し、演題採択率は62.3%、参加者数は1,244名であったこと並びに学会から交付された補助金を返還し、余剰金を震災義援金として寄付すること等の詳細な報告を行った。

5 第41回学術集会に関する準備状況報告の件

永田見生会長は、資料4に基づき、第41回学術集会準備状況に関する詳細な説明を行った。すなわち第40回がWeb開催となったことから野原前会長に会長講演を、菊地理事長に特別講演を依頼したことや第40回で予定されていたシンポジウムなどを改めて実施すること、国際委員会からの依頼事項に関する責任区分の明確化などである。

6 第41回学術集会演題投稿に関する報告の件

永田見生会長は、JSR 編集委員会から、第40回が Web 開催となったことによる二重投稿禁止に関する依頼があり、演題募集画面で同一演題名の投稿を禁じる告知を行っているとの説明を行った。各理事は、これを慎重に審議し、二重投稿の定義と責任の所在について確認を行い、意見の一致をみた。

7 第41回学術集会プログラム企画依頼に関する報告の件

指導医制度委員会担当山下敏彦理事は、指導医申請並びに資格継続に必要であるとして第41回プログラムに医療安全単位取得に関する講演を企画してほしい旨の要望を行い、永田見生会長から既に人選段階に入っていることが報告された。また、社会保険等システム検討委員会担当川上紀明理事から保険請求に関する講演を改正に合わせて2年ごとに企画してほしいとの要望があった。各理事はこれらを慎重に審議し、いずれも恒例化することが望ましいとして学術集会プログラム委員会が順次学会長に申し送ることで意見の一致をみた。

8 脊椎脊髄病領域における専門医制度に関する4者協議会結果報告の件

菊地臣一理事長は、資料5に基づき、日本整形外科学会(JOA)、日本脳神経外科学会(JNS)、日本脊髄外科学会(JSSS)と本会(JSSR)による4者協議会の結果、それぞれの基本領域学会の承認と担当委員を得て、JSSSとJSSRによる作業部会を設置して活動を開始する旨の報告を行った。

9 評議員選考委員会地区代表委員選任状況報告の件

千葉一裕理事は、北海道、近畿、中四国、九州の各地区において代表委員候補者が決定しており、東北、関東、中部の各地区は第5回理事会で候補者報告が行われる予定である旨の報告を行った。

10 各種委員会関係

a. 安全医療推進委員会：脊椎脊髄病手術合併症調査ソフト作成の件

田口敏彦理事は、脊椎脊髄病手術合併症調査で使用を予定しているソフトについて詳細な説明を行った。調査対象を指導医とし、調査対象期間は2011年1月から1年間、回収センターは山口大学とする旨の報告があり、各理事は慎重にこれを審議し、必要経費については財務委員長に一任、協力者へのインセンティブについては安全医療推進委員会で検討の上、理事会の持ちまわり審議を行うことを決定した。

b. 学術集会プログラム委員会

田口敏彦理事は、資料6に基づき、詳細な委員会報告を行った。

c. 教育研修委員会：第9回研修コース収支及び第10回研修コース準備状況報告の件

米和徳理事は、資料7に基づき、第9回研修コースが震災により日程と会場を変更して開催されたこと及びその収支報告を行った。また第10回研修コースでは、第1、第2コースに医療安全単位に関する講演を実施する案を提示した。さらに現在までのクリニカルフェローを対象としたアンケート結果について報告を行った。各理事は、これを慎重に審議した結果アンケート結果をホームページにアップすることを決定した。

d. 広報委員会：HP更新及びバナー広告募集に関する報告の件

山下敏彦理事は、資料8に基づき、ホームページ更新状況に関する報告並びにバナー広告申込みを受けている旨の報告を行った。各理事は、慎重にこれを審議し、広告掲載に関する制度の整備を委員会に付託し、整備され次第持ち回り審議を行うことを決定した。

e. 国際委員会：English Poster Award に関する報告の件

富士武史理事は、資料9に基づき、English Poster Award に関する説明を行い、国際委

員会関係事業は委員会が主導し、必要に応じて関係各位の協力を仰ぐ方針を決定した旨の報告が行われた。

- f. 社会保険等システム検討委員会：目安箱及び厚労省ヒアリングに関する報告の件
川上紀明理事は、資料10に基づき、山縣正庸委員が副委員長に互選されたこと、HP上の目安箱の問題点に関する報告を行った。各理事は慎重に審議し、診療報酬に関しては本会独自の活動を続けることを確認し、外保連担当委員は必ず外保連の会議に出席するよう求めた。川上理事はこれを了承し、保険請求に関する注意書を学会誌に封入する提案を行い、承認された。
- g. JSR 編集委員会：委員交代並びに第3巻広告申込み状況報告の件
星野雄一理事は、JSR 編集委員会構成の特殊性から各種委員会委員任期になじまない側面について説明を行い、平泉、宮本両委員から長谷斉、二階堂琢也への交代を上申した。また、同理事は、資料11に基づき、第3巻広告申込み状況に関する報告を行った。各理事は、慎重に審議した結果、これらを了承した。なお、新委員の任期は平成23年10月21日から平成24年定時評議員会終了の時までとすることを確認した。
- h. 新技術評価検証委員会：PVP 進捗状況報告の件
加藤真介理事は、資料12に基づき、日本IVR学会との協議内容に関する報告を行った。また、同学会に対して、今後は一部の会員活動でなく学会組織として協力を求めているとの説明があり、各理事の了承を得た。
- i. 診療ガイドライン策定委員会：診療ガイドライン進捗状況報告の件
佐藤栄修理事は、資料13に基づき、上梓した「腰部脊柱管狭窄症診療ガイドライン」に関し、企業が購入配布を希望していること及び簡略版作成希望があることを説明し各理事に意見を求めた。各理事はこれを慎重に審議し、購入配布については了承し、簡略版作成に関しては日整会の対応によって是非を決定することとした。
- j. プロジェクト委員会：NDI 終了並びに会計収支報告の件
加藤真介理事は高橋和久副理事長代理として、資料14に基づき、日本語版 Neck Disability Index の妥当性研究を行い、妥当性が示された旨の報告を行った。あわせて会計収支報告も行われ、各理事は慎重に審議した結果、収支報告内容及び残金の一般会計への繰り入れについて了承した。
- k. 用語委員会：日整会用語集アンケートに関する報告の件
同委員会委員長加藤真介理事は、資料15に基づき、日整会から用語集に関するアンケート依頼があった旨の説明を行い、必要に応じて整形外科学会用語集第7版を購入してアンケートに答えることを決定した旨の報告を行った。

11 その他

- ・事務所移転の件
徳橋泰明理事は、資料16に基づき、移転候補物件に関する説明を行った。各理事は慎重に審議した結果、移転先を本郷若井ビルとし、適正な手順を経て移転を実行することを決定した。なお詳細は徳橋泰明理事に一任することも併せて承認された。
- ・平成24年定時評議員会等開催の件
千葉一裕理事は、資料17に基づき、来年4月に行われる理事会・評議員会スケジュールに関して、新理事長承認は理事会決定事項となったため、任意団体当時とは異なる旨の説明を行い、各理事の了解を得た。なお、永田見生会長は新理事長が挨拶できる場を提供することを快諾した。
- ・会費未納者報告の件
千葉一裕理事は、資料18に基づき、会費未納者に関する報告を行い、各理事に協力を求めた。

・BJD 新ロゴマーク普及依頼の件

事務局は、資料 19 に基づき、運動器の 10 年・日本協会から同協会新ロゴマーク活用の依頼があった旨の報告を行った。

・震災義援金受け取りの件

千葉一裕理事は、NASS が企業と共同して東北大震災の寄付を募り、本会への受け渡しを希望しているため、金田清志先生に、NASS 年次学術集会時に本会を代表して受け取り役をお願いしたい旨の提案を行った。各理事は、満場一致でこれを了承した。

なお、これに関連して、SAS アナウンス目的で NASS へ本会会員のメールアドレスを提供することについて検討を行った結果、対象を脊椎脊髄外科指導医とすること並びに実施に関する業務を千葉理事に一任し、事務局がサポートすることとなった。

所要の議事を全て終了したため、議長は、閉会を宣言した。

以 上

平成 23 年 10 月 20 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 菊地 臣一

監 事 佐藤 哲朗

監 事 里見 和彦